

# 栄町国土強靱化地域計画の概要

- ◆ 国土強靱化とは、激甚化・頻発化する風水害等の気象災害や、切迫する大規模地震等の大規模な自然災害等に備えるため、事前防災・減災と迅速な復旧・復興に資する施策を、まちづくり政策や産業政策も含めた総合的な取組として計画的に実施し、強靱な国づくり・地域づくりを推進するものです。
- ◆ 栄町国土強靱化地域計画は、大規模自然災害時に、人命を守り、経済社会への被害が致命的にならないようにする「強さ」と、受けた被害から迅速に回復する「しなやかさ」を備えた地域と経済社会システムを平時から構築するための指針となる計画です。

## 1. 「基本目標」と「事前に備えるべき目標」の設定

国の基本計画を踏襲した4つの「基本目標」と、本目標をより具体化した8つの「事前に備えるべき目標」を、次のとおり設定する。

### 【基本目標】

いかなる大規模自然災害が発生しようとも

- I 人命の保護が最大限図られること
- II 町及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
- III 町民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- IV 迅速な復旧・復興

### 【事前に備えるべき目標】

- ① 大規模自然災害が発生したときでも人命の保護が最大限図られる
- ② 大規模自然災害発生直後から救助・救急、医療活動等が迅速に行われる
- ③ 大規模自然災害発生直後から必要不可欠な行政機能を確保する
- ④ 大規模自然災害発生直後から必要不可欠な情報通信機能を確保する
- ⑤ 大規模自然災害発生後であっても、経済活動（サプライチェーンを含む）を機能不全に陥らせない
- ⑥ 大規模自然災害発生後であっても、生活・経済活動に必要な最低限のライフラインを確保するとともに、これらの早期復旧を図る
- ⑦ 制御不能な二次災害を発生させない
- ⑧ 大規模自然災害発生後であっても、地域社会・経済が迅速に再建、回復できる条件を整備する

## 2. リスクシナリオの設定

国の基本計画及び千葉県国土強靱化地域計画のリスクシナリオを参考に、本町の地域特性等を考慮して、33のリスクシナリオを設定する。

### 〈主なリスクシナリオ〉

- ☆ 地震による建物倒壊や火災による死傷者の発生
- ☆ 異常気象等による突発的又は長期的な浸水等による死傷者の発生
- ☆ 土砂災害等による死傷者の発生 等

## 3. 脆弱性の分析と評価

①行政機能②福祉・保健医療・子育て③住宅・環境・都市・交通④産業・観光⑤教育・文化の5つの施策分野を設定し、リスクシナリオ毎に、現在、町が取り組んでいる施策の状況等を整理・分析して、脆弱性を評価した。

### 〈主な脆弱性の分析・評価結果〉

- ☆ 情報の収集と伝達手段の多重化・多様化の推進が必要
- ☆ 避難所機能の充実と、円滑な運営体制の確立が必要
- ☆ 公共施設等インフラの対災害性の向上や老朽化対策の推進が必要
- ☆ 国や県、地域住民、民間事業者等の多様な主体との連携の推進が必要 等

## 4. 国土強靱化に向けた対応策

脆弱性の分析と評価の結果を踏まえ、本町の国土強靱化に向けた対応策の検討と整理を行った。

なお、町の財源に限りがあることを踏まえると、国土強靱化施策をその基本目標に照らして、できるだけ早期に高水準なものにしていくためには、施策の重点化を図りつつ、ハード整備とソフト対策を適切に組み合わせて推進する必要がある。

### 〈主な対応策〉

- ☆ 国・県の防災関連システム等の活用及び、防災無線・情報メールの機能強化等を含めた情報伝達手段の拡充
- ☆ 備蓄品の充足率向上と、自主防災組織や防災ボランティア、民間事業者等、多様な主体と連携した避難所の運営体制づくり
- ☆ 道路、公園、下水道等の公共インフラの計画的な維持管理と更新
- ☆ 継続的かつ実践的な防災訓練・防災教育の実施と人材の育成
- ☆ 受援計画の策定及び、災害時応援協定の締結・拡充 等

※ 国土強靱化の取り組みでは、国連の持続可能な開発のための国際目標である「SDGs」の目標達成に向けた取り組みと関連付けて推進する必要もある。



国土強靱化のイメージ（出典：内閣官房）